

2026年度 学校経営方針

広島大学附属東雲小学校・附属東雲中学校 校長 永田 忠道

1 学校教育目標とめざす学校像

- (1) 学校教育目標：共生社会に生きる主体として自立的・協働的に学び育つ児童・生徒の育成
- (2) めざす学校像：落ち着き・安心・信頼の中でエネルギー（人間性）が発揮できる学校

2 附属校としてのミッション

- 【学校教育】 義務教育学校にむけて充実した学校教育、指導的・モデル的な学校教育の創造
- 【教育実践研究】 現代的な教育課題に対応した教育実践研究の推進、地域社会及び大学等との連携、研究成果の積極的・継続的・汎用的な発信等による社会貢献
- 【教育実習】 次代を担う教員養成・教師教育の充実、教師の専門性向上に関わる機能の充実

3 学校経営の重点方針

(1) 東雲らしさを活かした教育実践研究の推進と研究成果の積極的・継続的・汎用的発信

- ◇ 研究テーマ「共に生きることを学ぶ教科等の授業づくり」の追究
- ◇ 異年齢・異学年集団による自立的・協働的な学習方略の開発に関わる研究の継続・発信、インクルーシブ教育の観点を活かしたユニバーサルデザインの理念に基づく教育方略の開発に関わる研究の継続・発信
- ◇ 学校種・学年・教科を越境・往還する組織的なカリキュラム開発・授業研究・教師教育
- ◇ 包括的評価：複数の学級形態の児童生徒が共生する教育効果、各教科・領域等でめざす子ども像に向けた児童生徒の変容、教員の資質・能力（アンケートやルーブリックに基づく包括的・横断的・縦断的評価）
- ◇ 研究力・研修力向上のための情報提供・発信：モデル校として教育研究推進に有効な研修と研究発信

(2) 発達支持的生徒指導体制

- ◇ 日常的な児童生徒に関する情報共有・対応
- ◇ 組織的・定期的な情報共有・対応検討の場の設定
- ◇ SNS等を介したいじめ等、現代のいじめについての認識を深めるための研修
- ◇ 不登校支援にかかわる他機関との連携とSSR等の取り組みについての情報収集と検証

(3) 地域社会及び大学等との連携強化

- ◇ 現代的な教育課題を踏まえた教育実習の充実（自己調整学習、教科横断型授業、インクルーシブ教育等）
- ◇ 国内外のモデル校としての教員研修プランの検討・教員研修機能の充実
- ◇ 県内外からの研修協力要請（研修講座）や研修教員（長期研修）の受け入れ
- ◇ 公立学校とのネットワークづくり（地域の公立学校の研究会・研修会への積極的な参加・協力）
- ◇ 国内外の学校や大学・研究施設等からの学校視察等の受け入れ
- ◇ 広島大学教育学部の学部附属学校共同研究プロジェクト等を通じた研究推進
- ◇ 広島大学（教員・大学院生）からの研究協力要請及び研修協力要請の積極的な受け入れ
- ◇ 広島大学教職大学院との連携に基づくミドルリーダー育成のための研修会の開催
- ◇ 広島大学教職大学院授業科目「アクションリサーチ実地研究」「海外教育実地研究」等との連携強化
- ◇ 連携校（姉妹校）の米国 Exploris Elementary School & Exploris Middle School との児童生徒・教員の相互交流活動の充実、広島大学教職大学院生による米国連携校での授業実践支援
- ◇ 児童生徒及び保護者と地域・社会との連携を図る取り組みの充実・発展

(4) 「チーム東雲」(One Team, One Shinonome)として義務教育学校へむけた協働的体制の充実

- ◇ 小中の連携強化(教育課程・行事日程・校務運営・教育諸活動・生徒指導等に関する情報共有)
- ◇ 小中の児童生徒合同での学習活動(避難訓練等を含む)や児童会・生徒会活動の一層の充実
- ◇ 東雲教育研究会に向けた小中の一体的な取り組み(研究部会・教科等部会を中心に小中協働の継続・強化)
- ◇ 小中合同の理論研修会や校内授業研究会等、教育実践研究の核となる取り組みの組織的・計画的な実施
- ◇ 海外提携校(姉妹校) Exploris Elementary School & Exploris Middle School との交流継続発展
- ◇ 地域・社会・保護者への情報発信(教育実践研究、教育諸活動) : 機関誌、HP の一層の充実等
- ◇ 義務教育学校にむけた学校像の実現の基盤となるホールスクール(Whole School Approach) の視点
- ◇ 東雲小×東雲中 = 「More simply」 × 「More inclusively」 = 「One Team, One Shinonome」

(5) 働き方改革への取り組みの推進

- ◇ 勤務時間を意識した業務の計画的な実施、学校行事を含む教育諸活動の内容・方法等の点検・見直し
- ◇ 業務の効率化・能率化(時間対効果)につながる手立ての発想・提案・共有化
- ◇ 効率的会議運営(資料精選・事前配布、議案毎の所要・終了時間の明示、説明の要点化と協議の焦点化)
- ◇ 個人・分掌による業務平準化のための調整・改善、業務負担の軽減につながる環境整備
- ◇ 休養日・活動時間の適切な設定等に関する部活動の方針及び計画の策定と運営
- ◇ ICT・学校業務支援システムの効果的な活用
- ◇ 組織目標(勤務時間外の在校時間を月42時間以内とする目標設定)に基づく個人目標の設定、個人の業績評価シートへの具体的記述、改革の実態・変容の客観的な把握

4 学校としての判断と行動のための指針(Shinonome guidelines)

【人とつながり】を大切にする。

- 学校は子どもと大人が共に育つ場である。
- 一人ひとりのよさを認め、よさを学び合う。
- 「違い」や多様性に対する寛容さを涵養するとともに、「違い」を力に変える。
- 人や組織のつながりによって安心と新しさが創造され、よい学びやよい仕事ができる。
- 学校内外のつながりを充実、発展させる。

【計画と振り返り】を大切にする。

- 計画するから、振り返りが意味をもつ。
- 振り返りがあるから、評価や改善が可能になる。
- ときに計画を変更することをためらわない。

【変化と可能性と伸び代】を大切にする。

- やればできると信じ、さらなる高みを目指す努力を惜しまない。
- できた瞬間の実感とそれまでの経験や知恵の共有を大切にする。
- 授業力・環境構成力・学校経営力などを継続的に高める。

【いのち・こころ・からだ】を大切にする。

- 慎重にする。迷った時にはより安全・安心な方で。
- 伸び伸びとする。安心と信頼の中で支え合い伸びていく「いのち・こころ・からだ」。
- 自他の生命・人権を尊重し、世界の人々と平和を願い関わり合う。